

第3回京丹波町総合計画審議会 概要

開催日時 令和5年1月12日(木) 13時30分～15時00分
開催場所 京丹波町役場 大会議室

【会議資料】

資料1 まちづくりの重点課題を考えるワークショップ報告書
資料2 第2次京丹波町総合計画（後期基本計画）素案

【次第】

1. 開会
2. あいさつ（会長）

改めて、新年のお慶びを申し上げます。第3回の審議会にご参加いただき、ありがたい。委員の皆様にはそれぞれの場で活躍頂いている事と思う。連日のように、コロナに関する報告がされている。感染者数が減少しておらず心配だが、このような状況の中で本会議も感染防止対策を徹底しながら開催させていただく。今回は、パブリックコメントに向けて後期基本計画の素案の最終確認を行い、委員の皆様からご意見をいただきたい。コロナの感染防止対策の観点から、時間短縮で行う必要はあるが、積極的な審議をお願いしたい。

【町長挨拶】

あけましておめでとうございます。昨年は2回の審議会に参加いただいたこと、お礼を申し上げます。昨年と異なり、今年の元日は大変良い天気で、気持ちよく新年を迎えることができました。今年は希望に満ちた年になると良いと思う。昨年はウクライナへの侵攻や元総理への襲撃、コロナや大雨など、激動の一年だった。今年こそ、良い年になることを願っている。卯はものごとのはじまりの年とされている。今年は飛躍していく年になるのではないかと。江戸幕府が開かれたのも終わったのも、卯の年。世界が今年こそ平和になることを望んでいる。昨年度から皆様にお世話になっている後期基本計画は、ご審議を通じて、またワークショップの結果も溶け込ませながら、未来を新しく照らす計画になっていると思う。京丹波町には多くの魅力と強みがある。一昨日、東映と松竹の撮影所を訪れた。撮影所の所長からは我々が思っている以上に、京丹波町が映画の撮影に適しているという話があった。京丹波町は太秦から1時間で訪れることができる。また時代劇のロケーションにも適しているということであった。現代劇の場としても、この庁舎を活用したいという話もされた。一方で、課題もある。JRバスの園福線の撤退の話が急遽出てきた。存続に向けて、JRと協議を継続していきたい。また、今後は人口が減っていくことが想定される。人口課題解決に向けても、子育て支援策等にしっかりと取り組み、

出産育児に希望が持てる社会づくりを進める必要がある。会議の中でも自身が目指す方向を後押ししていただけるようなご意見をいただいている。計画の中にはこうした点も含め、町がPRしていきたい点なども記載いただいていると感じる。この後、パブリックコメントを実施し、最終的な取りまとめという手順になる。委員の皆様には大変お忙しいところであるが、最後までご協力をお願いしたい。

3. 協議事項

①まちづくりの重点課題を考えるワークショップの開催結果等について

事務局：「資料1」を用いて説明。

事務局：今の説明について、質問、ご意見あればお願いしたい。

事務局：この後、計画の説明をさせていただく際に、主要プロジェクトの内容も説明するため、合わせてご意見があればお願いしたい。

②第2次京丹波町総合計画後期基本計画の策定について

事務局：「資料2」を用いて説明。

事務局：質問、ご意見あればお願いしたい。

委員：P68の「(2)公共交通の充実」について、先ほど町長からJRバスの廃止の話が出ていたが、その代替手段について追加いただく必要があるのではないかと。また、P39の「(2)スポーツ・レクリエーションの振興」について、スポーツ推進員の取組内容について記載を追加してはどうか。

事務局：冒頭で町長からあったJRバスの件はご指摘のとおりである。JRが撤退した際は代替交通の確保も必要になる。交通手段の確保と充実に向けて、京都府や近隣市町と連携しながら取り組む必要がある。そうした点をP68に追記することを検討したい。P39のスポーツ推進員の記載についても、検討したい。

委員：P39の「(2)スポーツ・レクリエーションの振興」の内容について。昨年10月末に丹波自然運動公園のトレーニングセンターがハイパフォーマンススポーツセンターのネットワーク機関として指定を受けた。ハイパフォーマンススポーツセンターは東京にあるオリンピック等の世界的な大会に出場する選手が集まる医科学的な施設であり、全国で17施設がネットワーク機関として指定を受けている。利用の条件等はあるが、東京に行かなくてもトレーニングセンターで体力測定やデータ共有が可能である。中高生をはじめ、地域で活躍される選手の支援機関として活用し、西日本を代表する場所にしたい。こうした点の記載を検討いただきたい。また、交通機関については記載いただきたい。P25の「(2)産業等連携による観光交流の推進」の二つ目の○に「クラダシチャレンジ」という記載があるが、用語の説明が必要ではないかと。また、P34の「(2)教育内容の充実」の主な取組の中に「社会福祉体験学習の実施(乳幼児保育施設及び社会福祉施設での職場体験学習)」とあるが、本来であれば、乳幼児保育施設も含め社会福祉施設であり、「乳幼児保育施設及び社会福祉施設」のように「乳幼児保育施設」を併せて記載する必要はないのではないかと。またP35の「(2)教育内容の充実」の主な取組の中では、「福祉施設」とだけ記載されている。「社会福祉施設」と「福祉施設」の用語統一が必要ではないかと。P59の「8 防災」について、担当課名に「総務課」だけが上がって

いるが、避難行動要支援者の支援については「福祉支援課」等が必要ではないか。担当課の確認をお願いしたい。

事務局：P25の「クラダシチャレンジ」については、用語解説の追加を検討したい。次のP34の社会福祉施設の記載についても、担当課に確認したい。また、P39への丹波自然運動公園のハイパフォーマンススポーツセンターの記載についても検討したい。P59の防災の担当課名についても、確認する。

委員：新規就農について、現状では新規就農者が来たとしても、良い土地は新規就農者に預けられない。また設備投資のための運営資金が不足しているという面がある。本来なら、新規就農者が来たら、地域が一体となって良い農地を提供する必要がある。また、水稲はともかく専門の栽培指導員が不足しているので、検討いただきたい。新規就農者についても、子育て支援などの地域に住むための相談員によるケアも必要だと思う。また、喫緊の課題として、肥料価格の高騰がある。生産者目線では、作るだけ損になる。こうした状況が今後も継続することが見込まれる。町内の資源を活かした有機農業を進めていく必要がある。また、京丹波町のコメは非常においしいと評判だが、なかなか売れない。ネームバリューのあるブランド米を、ストーリー性をもって作り、販路も構築する必要がある。スマート農業の話もあるが、これは非常に設備投資が高くつく。直売所について、生産者の高齢化が進んでいる。食のまちと言っても、作る人がいなくなれば実現できない。車に乗れなくなっても続けたいという方もいるので、出店の方法を検討いただきたい。ハウスなどもやる気のある方に貸し出していけると良い。また、農地の荒廃や遊休化の問題があるが、その一端は有害鳥獣が原因。特に優良農地についてはしっかりと鳥獣対策を行い、その農地に担い手を集約していただきたい。黒豆については、昔からの特産だが、黒豆の一部の生産者はいなくなっている。枝豆を取った後の作業が重労働で、乾燥や調整の施設も必要になる。一方で、枝豆が特産になりつつあるため、町も力を入れてほしい。また、P24の「3 観光交流」の目標指標で、「インバウンド観光客数」が基準値137人から目標値が1,500人と非常に高くなっているが、実効性があるのか。DMOなどとの連携で実現するのか。その手法をしっかりと検討してほしい。京都に訪れた修学旅行生に丹波地域で農業を体験してもらうような農家民泊も検討してほしい。また、モニターツアーやファムトリップも記載があったが、具体的なメニューを検討いただきたい。また、道路交通の関係で、せっかく良い庁舎ができたので、周辺部を用途地域に指定する等により、庁舎を生かした環境整備を進めることも必要ではないか。また、国道9号について、中央分離帯のつつじがうまく育たず、雑草だらけになっている。国土交通省に違う植栽を植えるように話をしてほしい。

事務局：農地について、総合計画の達成に向けて重要な取組のご指摘をいただいたと思う。今回の総合計画にはフードバレーというキーワードがあるが、農業だけでなく、多様な主体との連携で解決していく必要がある課題も多い。ご指摘いただいた点をしっかりと持ち帰りたい。インバウンドについては、取組を開始した当初にコロナが発生したため、停滞していた部分もあった。マリOTTホテルを核として、京丹波町の観光に取り組んでいくことになる。農業のブランド化についても、フードバレーの取組の中で進めていきたい。

委員：インバウンドについて。マリOTTホテルに来られた外国人の方が食事をする場所が近くにない。京都市内には高級ホテルがたくさんできている。食のまちに来て食べる場所がないというのは、問題ではないか。

事務局：ご指摘のような面はあるが、まったくないということではない。各施設や飲食店がいか

に連携して、相互に案内し合うかが重要。コロナ禍の中で、中山間地に目を向けてもらえるような動きもある中で、この機運を捉え取組を進める必要がある。

補足だが、味夢の里への無料バスを走らせている。また、外国の方が求めているのは、本当の田舎。町内ですぐに高級な料理を提供する店をつくることは難しいが、ここでしか提供できないものを検討していく必要があると考えている。

委員：P68の「(2)公共交通の充実」について、今あるものがなくなる危機的な状況では、維持する、守るという文言も記載した方が、現状に即しているのではないか。

事務局：ご指摘の通り、公共交通は住民の方から見て伝わりやすいような形で記載する必要がある。文言の整理を検討したい。

委員：JRバスが廃止になるという話だった。自身は昨年の暮れに国土交通省の方と話す機会があり、民間企業を活用して維持しているという話を聞いた。行政だけでは、予算がいくらあっても足りない。企業とタイアップして取組を進める必要もあるのではないか。また、マリオットを核にインバウンドを引き寄せるといったことだったが、ホテルを目的に訪れる人はいないのではないか。一方で、外国の方が京丹波に来たいと思うような魅力はある。例えばインスタを見て地方に訪れる外国人が多いときく。そうしたツールも活用していく必要があるのではないか。

事務局：バスの件はご指摘の通り、行政だけでは難しい面もある。再度仕切り直して、民間とも連携して継続を検討していきたい。住民の皆様にも協力いただく必要も出てくると思う。マリオットについても、ご指摘のとおりである。マイクロツーリズムが注目される中で、京丹波町でしか味わえない体験を活かし、魅力あるメニューを活用し呼びこんでいきたい。この点も行政だけでは難しいので、連携が必要になると思う。

委員：JRバスについて、住民に安心を与えたいということだった。町長と面談した際に、どうやったら町内の学校の児童生徒を増やせるかという話をしたが、間もなく願書を出すタイミングで、このような話題は不安材料である。JRへのお願いだけでなく、第2・第3の手段を精査していることを町民に示し、何があっても住民の生活を守る姿勢を示す必要がある。そうでないと、須知高校には人は集まらないと思う。自身がJRの社長なら、経営が厳しい路線は淘汰する。京丹波町や南丹市、福知山市が早急に手法を考える必要があると思う。最近、周囲で亡くなる方が多く、地域の住民も減少しており、行政区で何かやろうとしても難しい。今後は広域で物事を進めていく必要があるのではないか。今回は4年間の計画だが、早めにその先の計画を立てる必要があるのではないか。将来的には広域連携で福祉等を考えていく必要があるのではないか。

事務局：JRについては、ご指摘の通りタイミングが悪い。須知高校の生徒への影響もあると思う。こうした点も踏まえながら、各市町とともに交通手段を残すことに全力で取り組んでいる。JRとしては、代替交通にバトンタッチできるまでの準備が整うまで存続する、という状況になっているので、準備を進めたい。広域での取組については、小学校区単位で住民自治組織の取組を進めてきたが、地区によっては難しい状況もある。まずは農業のように、近隣の地区の連携の取組を、行政としても後押ししていきたい。

委員：JRバスのニュースについて、自身の職場にも園福線を利用している人がいるが、通勤時間帯に丹波自然公園に行くためにバスに乗る人が大量にいて、通勤のバスに乗れないといった状況があったと聞いた。なぜ、そのようなバスが廃線になるのか。丹波自然公園に行く人は、必ずバスを利用してもらおうといった取り決めをする等、地域の観光資源をうまく活用すれば、JR

バスの存続にもつながるのではないかと。バスの利用状況を把握し、JRに打ち勝つための議論をしてはどうか。また、町のブランドとしては黒豆や栗が脚光を浴びているが、そばの出荷量も多いと聞く。また、変わった野菜を作っている方もいらっしゃるという。たまたま栗と黒豆が有名だが、いろんなものがつくられている。そうした作物がどこまで流通しているのかを明確化し、ホームページなどで公表する仕組みをつくれば、栗や黒豆以外の農産物を作っている方にも喜ばれるのではないかと。

事務局：JRバスについて、こうした情報も踏まえ、JRと交渉したい。また、ブランドの見える化についても検討し、プロモーションにつなげたい。

委員：町内には丹波自然公園のような屋外の遊び場はある一方で、屋内で安全にのびのび遊べる場所がないという声をよく聞く。中央公民館の2階に木育ひろばがあるが、京丹波町にお住いのかたも場所をご存じない。また、隣に図書室があるため、のびのび遊べない。安全にのびのび遊べる室内型の場所があれば、町外の方を呼び込むきっかけにもなると思う。滞在時間も長くなり、訪れる回数が増えれば、京丹波町の良さが伝わり、交流機会が増え、移住にもつながると思う。また、この庁舎は町内産の木を使った自慢の庁舎であるが、町外の方も利用されている。京丹波町産の木材を活かした木育事業や住民のみなさんが暮らしの中で、京丹波の木材を感じられるような状況になるといいのではないかと。和知など、自身にとっては、きれいに整備されていることが却って面白みがないように感じる部分もある。既存の施設を活用するために、幅広い方の意見を聞けば、もっと活かせるのではないかと。今あるものや場所を使って、具体的な事業を提案したいし、町からもしていただきたい。

事務局：ご指摘のとおりである。身近な地域資源に子どもたちが関わる機会をつくることは非常に重要で、絵本のプレゼント事業なども行っている。一方で、町内には屋内のスポーツ広場があるがPRができていない部分もある。雨が降っても子どもたちが遊べるような手法を考え、ゲートボールやグラウンドゴルフだけではなく、多様な遊びの機会を検討する必要がある。行政だけでは難しい部分もあるので、地域の方と一緒に考えたい。

委員：P18の「1 農林水産業（京丹波ブランド戦略）」の目標指標「新規就農者数」の目標値について、R3からの5年間で7人しか増えていないが、弱気ではないかと。やめる人の数の方が、圧倒的に多いと思う。もう少し強気な目標値を立ててほしい。また、スマート農業をやるにしても、設備が高く、機械が壊れた際の修理代も高くつく。補助率を上げることも検討してほしい。獣害については、昨年5月から地域で猿追が行われている。LINEでグループを組んで出現したら撃っている。猿の出現場所は、レーダーのようなアンテナを持って探しに行かないといけない。猿が出たという連絡があると、作業中であっても現場に行くため、非常に非効率である。P19の「(1) 農業の振興」の主な取組の有害鳥獣対策のところ「ICTやドローンを使った」といった文言の追加も検討してほしい。スマート農業のような栽培に関わるところだけでなく、ICTを利用してほしい。猿追いをして気づいたが、柵を作っても、周囲に気が伸びると獣は飛び越えて入ってくる。柵の周辺の木を切るための補助金についても、出していただくとありがたい。P32の「(1) 移住・定住希望者への支援強化」について、町のHPを見ていたが移住を推進するページがあるのかと探したが、「おかえりなさい・・・」といったような記載しかなく、わかりづらいように感じた。もう少し「移住しませんか」といった率直な内容にした方がいいのではないかと。また、情報発信について、HPに掲載するのはいいが、もう少し積極的にLINEで移住希望者に情報を発信する等の方がいいのではないかと。自身の地

域でも亡くなられる方が増えて、人口が減っていると感じる。味夢の里など、人が集まる場所に移住の LINE の QR コードを掲載する等、工夫をして発信をしていかないと、人は増えないと思う。

事務局：新規就農者数については、記載も含めて、本気度が見えるように、再度検討したい。スマート農業などについては、人が足りない分を便利な ICT に置き換えて合理化する必要がある、可能な限り取り組みたい。ドローンの活用についても考えている。山と柵の間の木の伐採については地域で申請してもらえれば活用できる補助があったと思う。情報を提供していきたい。

事務局：いただいたご意見は、可能な限り計画に反映したい。他にご意見がなければ、次に移る。

③パブリックコメントの実施について

事務局：説明。

4. 次回の審議会について

5. 閉会

副会長：年始早々にお世話になり、ありがたい。貴重なご意見等を賜った。先ほどもあったように、本日のご意見とパブリックコメントの結果を反映し、2月に最後の会議を行うことになる。今回の年末年始は行動制限がなくなり、楽しんでいただけた方も多いと思うが、一方で感染者数が増え、亡くなられる方も増えているようである。まずは感染しないことが一番ということで、今後も感染対策にご協力いただきたい。

以上